

船橋市立医療センター—建替基本構想(案)【概要版】

昭和58年に開院し、建て替えによる機能強化が求められている船橋市立医療センターについて、新病院の目指す姿や診療機能、施設整備の概要等をまとめた基本構想(案)を策定しました。今後、「海老川上流地区のまちづくり」の進捗状況と整合を図りながら計画を進め、平成35年度中の開院を目指します。

新病院の基本的な考え方

新病院の使命
地域医療支援病院として、**地域の医療機関等と連携・協力**しながら医療ニーズに対応します
救急医療を主体とする急性期医療及び**がん診療**を中心とした**高度医療**を提供します
総合診療機能を有する地域の中核病院として、**市民の安心の確保に寄与**します



新病院の目指す姿

新病院の診療機能、施設・設備



建て替えの必要性

給排水設備の老朽化や診療部門の狭隘化等の施設的な制限により、現状の機能拡充や、新たな機能の設置ができない状況
これにより、高度化する医療技術への対応や、医療の安全と安心の確保が困難な面も出てきている

新病院では、**現在の機能を継続しながら発展させることが重要**であり、**建て替えを契機としたさらなる発展に向け、対応が必要**であると考えられます。

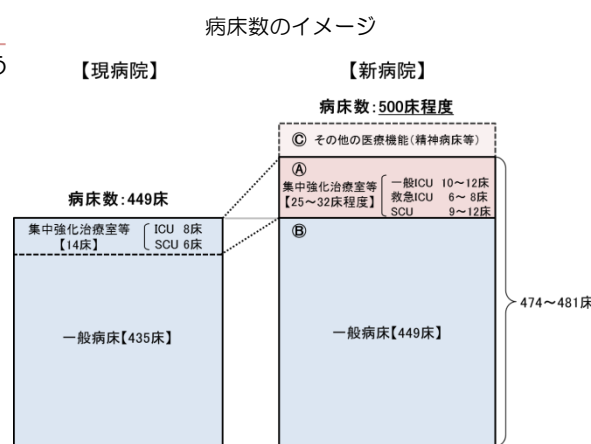
上記を実現するための
病床規模・施設等とは

新病院の施設整備について

新病院の病床規模 医療センターのさらなる発展に向けて考えられる主な内容は、次のとおりです。

- **(1)集中強化治療室等(ICU,SCU)の充実**
一般病床で確保しているICU等の集中強化治療室を、現在の14床(ICU8床、SCU6床)から、25~32床(ICU16~20床、SCU9~12床)に増床する
- **(2)内科診療科の充実**
一般病床の増床が可能な14床の中で内科診療科の充実を行う
- **(3)その他の医療機能の検討**
精神科身体合併症対応や、周産期への対応等の必要性も含めて、引き続き検討する

これらを踏まえ、基本構想では、新病院における望ましい病床規模を**474~481床程度+その他の医療機能(精神病床等)**と想定しました。このため、病床規模としては**500床程度**を目安に、今後、引き続き検討していきます。



施設計画等

➤ (1)想定される施設の概要

- ①建築物
 - ・病院施設 500床規模(想定)
 - ・駐車場施設 900台程度 ※現在の駐車場台数700台(仮設駐車場含む)
 - ・救急ステーション
 - ・院内保育所 定員70名(想定)
- ②その他
 - ・将来建て替えスペース
 - ・ロータリー等



新病院の敷地面積としては40,000㎡以内を想定しておりますが、今後「海老川上流地区のまちづくり」の進捗状況と整合を図りながら決定していきます。

➤ (2)整備スケジュール

建設用地確定後、スムーズに設計・建設に着手し、平成35年度(2023年度)の開院を目標とします。



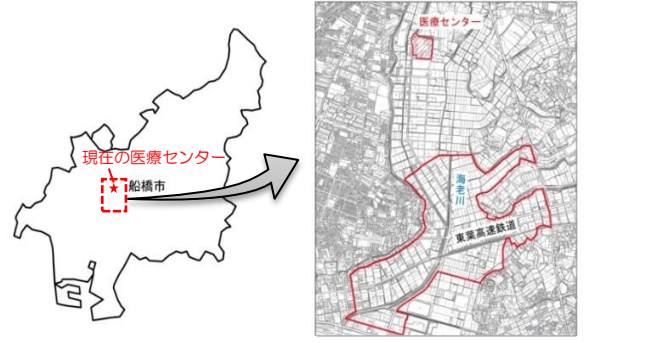
➤ (3)概算整備事業費

概算整備事業費※1は総額418億円※2規模となります。ただし、この金額はあくまでも概算であり、社会情勢の変化、整備手法、工法などにより大きく変化する可能性があります。

※1 概算整備事業費は、他の事例等を基に算出した参考値
※2 消費税率10%で試算

移転候補地

現在検討されている移転候補地は、「海老川上流地区のまちづくり※」予定地内となっています。



※海老川上流地区のまちづくり…市の中心部に位置し、中心市街地に近い等、地理的利点がある海老川上流地区において、自然との調和を図りながら、医療・福祉機能を中核として進める「メディカルタウン」のようなまちづくり。

事業収支計画

開院後の事業収支を試算したところ、開院後5年目までは損失が生じていますが、6年目以降は経営が安定する見込みです。

既存病棟の活用方法

平成37年度時点において、築30年未満の建物はC館増築棟・E館のみとなります。既存病棟を活用する場合は、用途が限られていることや、整備する施設の必要性、事業の継続性、事業主体、改修費を考慮した費用対効果等を勘案し、活用方法を検討していく必要があります。